

ASICS通信

59th Term

2012.4.1~2013.3.31



証券コード: 7936

アシックスの軸足—社長メッセージ

成長が期待できる地域・分野に経営資源を集中するとともに、グローバルに通用する商品イノベーションにより「AGP2015」の達成を目指します。

ランニング事業の好調により前年同期間比で増収増益を達成

2013年3月期(第59期)の連結業績は、グローバルレベルでのランニング事業の強化・拡大策が奏功し、売上高は2,601億円と前年同期間比で増収となりました。利益については、営業利益は仕入コストの上昇などに伴い186億円となりました。当期純利益は移転価格税制に基づく法人税等追徴税の還付金および還付加算金の計上により137億円となり、前年同期間比で増益となりました。

欧州債務危機や新興国経済の減速が懸念される不透明な状況でしたが、機能性とデザイン性が高いレベルで融合した商品の投入や積極的なマーケティング投資を継続的に行ってきた成果もあり、日本、アメリカ、ヨーロッパ、アジアなどの各地域において現地通貨ベースで増収となりました。なかでもアメリカでは、昨年にランニングシューズのトレンドの変化に対応し、軽さと履き心地を追求しカラフルな色使いのランニングシューズ「ASICS 33」コレクションを投入したことなどにより、2桁成長を回復しました。また、ブラジルでは、前年比30%を超える売上成長を継続しています。



代表取締役社長CEO
尾山 基

アメリカとブラジルを中心とする米州で成長を加速

当期は増収、当期純利益で増益となりましたが、中期経営計画「アシックス・グロース・プラン(AGP)2015」の目標に掲げた2016年3月期の連結売上高4,000億円を達成するためには、成長の加速が欠かせません。そのため、当社のブランド認知度向上が期待でき、かつ市場の安定成長が期待できる米州を最重点地域と位置づけています。

アメリカでは、当社が強みを持つランニングシューズを中心に売上拡大を図ります。市場が拡大する一方で競争も激化しているため、新商品の投入とともに、フラッグシップショップとアウトレットストアをオープンすることを計画しています。また、ブラジルでは、2014年のサッカー・ワールドカップ、2016年のリオデジャネイロオリンピックの開催を見据え、積極的なマーケティング戦略を展開していきます。

その他、ヨーロッパでは、ランニングシューズでトップシェアのドイツやフランス、今後の市場の成長が期待できるロシアなどの新興国で拡販を図っていきます。

国内では流通網の整備によって成長軌道を維持

国内においては、2013年1月に世界本社機能と日本事業を分離させる組織再編を実施し、流通チャネルに応じた販売戦略・施策を迅速かつ、きめ細やかに実施する体制を構築しました。国内における成長軌道を確実なものにするため、小売店との連携を強めるとともに、アシックスの世界観を表現できる自主管理売場の拡大や自社インターネット販売チャネルの強化を図ります。

また、国民的スポーツであるベースボール事業については、2013年シーズンの新商品からすべて「アシックス」ブランドに統一するとともに、アシックススポーツ工学研究所で培ってきた知見を生かしてアシックスらしい高機能商品を展開し、順調なスタートを切ることができました。

ダイバーシティに基づく強靱な組織を構築

アシックスグループが持続的に成長していくためには、グローバルな経営体制の構築とグループの将来を担う人材の育成が必要です。

経営体制については、すでに海外子会社において、現地のスポーツマーケットで豊富な経験を持つ幹部を採用してきましたが、世界本社機能を強化するため、商品企画やブランド戦略、および法務・コンプライアンスを統括する部署などにも外国人の幹部を採用しました。国籍、文化、年齢、キャリアなど、異なるバックグラウンドを持つ人たちがお互いの意見をぶつけ合

い、議論することで新しい視点が生まれ、創造的なアイデアにつながると確信しています。同時に、多様な人材が同じ目標に向かってベクトルをあわせて邁進できるよう、外国人の経営幹部や従業員を本社のある神戸に呼び、アシックスが創業以来守り続けてきた企業理念やDNA、すなわち「アシックススピリット」の浸透・共有を図っていきます。

また、2011年に開設した社内人材育成制度「アシックスビジネスリーダーズスクール」を活用し、グローバルで活躍できる人材の基盤作りにも努めていきます。



ブランドイメージの進化を図り AGP2015の達成に邁進

世界統一ビジュアルによるブランド広告や、世界各地に展開する「アシックスストア」でアシックスの世界観を伝えてきたことによって、当社のブランドの認知度は格段に向上しました。一方で、さらに高みを目指すためには、新たなブランド戦略を展開する転換点にあると認識しています。当社ブランドの持つ「高機能」「高品質」のイメージを維持したまま、一般の消費者にもっと身近に感じていただけるブランドへと進化させるため、店舗演出を含むブランドデザインを再構築していきます。この点については、新たに採用した外国人幹部が持つ豊富なノウハウや経験が最大限に生かされることを期待しています。

AGP2015も残すところ3年となりました。目標達成のためには、当社が強みを持つランニング事業のさらなる強化はもちろん、市場規模が大きく、当社の強みが発揮できるベースボールやテニスなどのアスレチックスポーツ分野や、アパレル事業の拡大が欠かせません。そのためにも、グローバルに通用する競争力の高い商品の投入に加え、サプライチェーンの最適化や製造工程の効率化にも取り組み、収益性を高めていきます。そして、資本効率を考えながら、生み出された資金を将来の企業価値向上につながる分野に優先的に振り向け、AGP2015の目標である連結売上高4,000億円の達成を目指します。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年6月

代表取締役社長 CEO

尾山 基



[GOLDSTAGE]

軽さやスピード感にこだわった
野球用品の最上級シリーズ



2

[MEXICO MID RUNNER DX]

イタリアのデザイナーと
コラボレートしたシューズ



[GT-2000 NEW YORK]

初代から20代目になる
ランニングシューズの
グローバルモデル

3



4

[FT GORE-TEX Active Jacket]

防風性はもとより、
優れた透湿性を発揮する
ジャケット



[IDS LIGHT X-FLY women]

選手の意見を取り入れて作製した
女子サッカー専用
スパイクシューズ

5

ランニング用品の旗艦店「アシックスストア」をグローバルで拡充

世界的にランニング人口が増加するなか、ランニング用品を取り揃えた旗艦店「アシックスストア」の出店を積極化しています。

2013年1月には、グローバルで11店舗目、北欧では初出店となる「ASICS STORE STOCKHOLM (アシックスストアストックホルム)」をスウェーデンのストックホルム市内にオープンしました。

国内では、直営店で初めて野球などの各スポーツ用品を取り揃えた旗艦店「アシックスストア大阪」を、2013年4月「グランフロント大阪」にオープンしました。店内は、リラックスしながら商品を手に取ったり、お客様同士でコミュニケーションを深めたりできるよう、ゆとりのある作りとしています。

今回の出店により、国内外で「アシックス」ブランドのイメージ向上と売上拡大を図ります。



アシックスストアストックホルム(スウェーデン)
2013年1月オープン



アシックスストア大阪(大阪市北区)
2013年4月オープン

フランスおよび日本の陸上競技連盟と契約

中期経営計画「アシックス・グロース・プラン(AGP) 2015」達成に向け、グローバルでの陸上・ランニングカテゴリーの事業拡大を図っています。

その一環として、2013年1月から2016年12月までの4年間、フランス陸上競技連盟(FFA)に当社製ウエアおよびバッグ、アクセサリ類などを提供するオフィシャルサプライヤーに決定しました。FFAには、次世代を担う若手有望選手が多く所属しており、ユニホームなどのウエアを着用していただくことで、グローバルでのブランド認知拡大と製品の信頼性の向上が期待できます。

また、2013年4月から2017年3月までの4年間、公益財団法人日本陸上競技連盟のシニア代表チームおよびジュニア代表チームへの当社製品の提供、陸上競技の強化および普及活動などを行うオフィシャルパートナーに決定しました。

アシックススポーツ工学研究所の知見を生かした機能構造を盛り込んだ競技用ウエアを提供し、選手のパフォーマンスを最大限に発揮できるようサポートします。

PARTENAIRE PRINCIPAL



フランス陸上競技連盟
オフィシャルサプライヤーロゴ

アメリカのマラソン大会で初めてタイトルスポンサーに決定

2013年3月にロサンゼルスで開催されたアメリカで最大級の規模を誇るLA MARATHONにおいて、アメリカのマラソン大会では初めて大会名に「ASICS」の名前がつくタイトルスポンサーとなりました。「ASICS LA MARATHON」として開催された今大会には、世界各国から約26,000人が参加し、大会オフィシャル商品の製造と販売、大会関連イベントなどで新しい大会ロゴを使用した広告宣伝活動などを行ったほか、参加ランナー全員への記念Tシャツ提供、各種情報やサービスの提供などを行いました。これまでのスポンサー活動で培ってきた経験やランナーから寄せられた声を生かしてサポートし、大会を成功に導きました。



「オニツカタイガー」ブランドの直営店舗を拡充

先鋭的で洗練されたスポーツファッションブランド「オニツカタイガー」のさらなる認知度向上に向け、積極的な店舗網の拡充を行っています。

2013年2月には、「オニツカタイガー岡山」(岡山県岡山市)、3月には「オニツカタイガー新三郷」(埼玉県三郷市)と「オニツカタイガー丸の内」(東京都千代田区)、4月には「オニツカタイガー阿倍野」(大阪市阿倍野区)と「オニツカタイガー姫路」(兵庫県姫路市)をそれぞれオープンしました。



オニツカタイガー丸の内(東京都千代田区)
2013年3月オープン



オニツカタイガー丸の内の
オープン記念に発売されたシューズ

なかでも、東京・丸の内の新商業施設「KITTE(キッテ)」にオープンした「オニツカタイガー丸の内」は本物感、独自性、革新性を持つ“プラチナムライン”の品揃えを充実させた都市型店舗です。流行に敏感で時代の最先端を行く都会のビジネスパーソンをメインターゲットに、「オニツカタイガー」ブランドの洗練されたイメージをアピールしていきます。

東日本大震災で被災した子どもたちを神戸に招待

東日本大震災で被災した子どもたちへの継続的支援活動「A Bright Tomorrow Through Sport(ブライ トゥモロー スルー スポーツ)あしたへ、スポーツとともに」の一環として、2013年3月に岩手県陸前高田市で活動するミニバスケットボールチームを神戸に招待しました。

今回招待したのは、同市内で活動している広田ミニバスケットボールスポーツ少年団の児童たちで、兵庫県下のチームとの交流試合をはじめ、アシックススポーツミュージアムでのミニチュアシューズ作り、阪神・淡路大震災の被災地

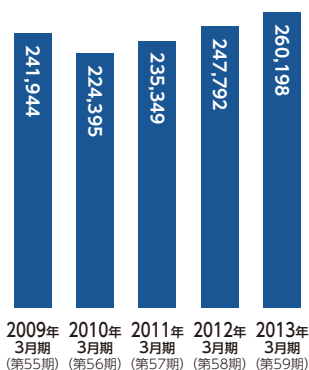
や関連施設(神戸港震災メモリアルパークなど)の見学などを行いました。

アシックスグループは、被災地復興のため、今後も現場のニーズに耳を傾け、スポーツを通じた継続的な支援を行っていきます。



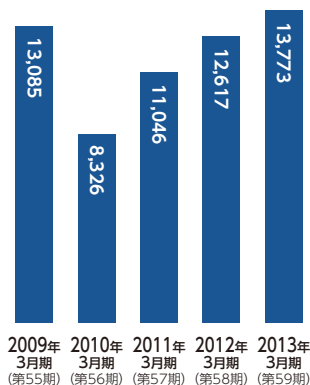
売上高

(単位:百万円)



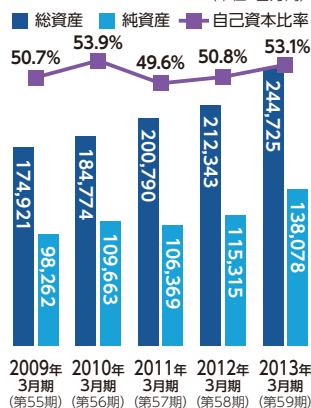
当期純利益

(単位:百万円)



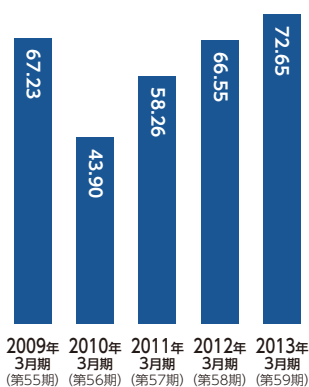
総資産・純資産・自己資本比率

(単位:百万円)



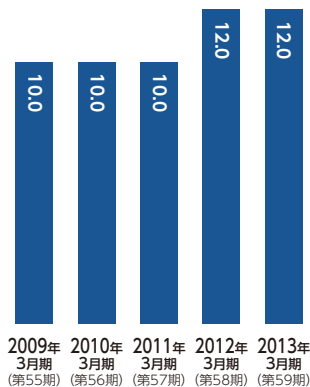
1株当たり当期純利益

(単位:円)



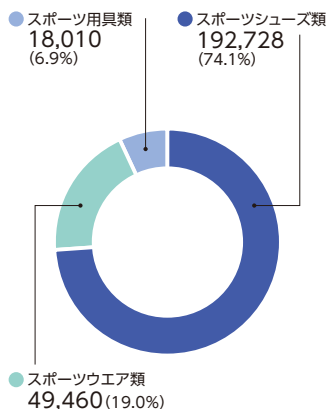
1株当たり配当金

(単位:円)



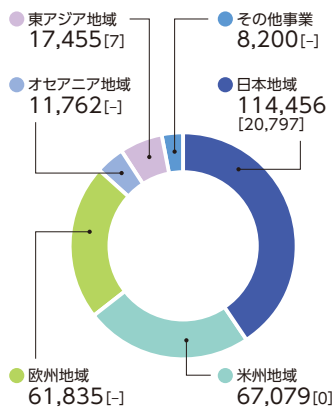
分類別売上高

(単位:百万円)



報告セグメント別売上高

(単位:百万円)



※ []内は、セグメント間の内部売上高(内訳)です。
内部売上高がない場合は[-]と表示しております。

○ 通期連結業績予想

(単位:百万円)

	2013年3月期 第59期(実績)	2014年3月期 第60期(予想)	前期比 増減率
売上高	260,198	305,000	17.2%
営業利益	18,663	22,000	17.9%
経常利益	20,526	22,000	7.2%
当期純利益	13,773	13,500	△ 2.0%
1株当たり当期純利益 (単位:円)	72.65	71.21	—

POINT解説

● 経営成績に関する分析

当連結会計年度における**売上高**は260,198百万円と前年同期間比5.0%の増収でした。このうち国内売上高は、主にランニングシューズが好調であったものの、アシックスブランドへの統一の影響によるベースボールウェア・用具類の低調などにより、94,060百万円と前年同期間比1.7%の増収でした。海外売上高は、米州および欧州などでランニングシューズが好調に推移したことにより166,138百万円と前年同期間比7.0%の増収でした。

売上総利益は主として売上高が増加したことにより113,838百万円と前年同期間比5.8%の増益でした。販売費及び一般管理費は、主に人件費が増加したことに加え、韓国子会社において最終消費者への販売価格で売上高を計上したことに伴い販売代理店に支払うコミッションを支払手数料として計上したことにより95,174百万円と前年同期間比8.3%増加し、**営業利益**は18,663百万円と前年同期間比4.9%の減益でした。**経常利益**は、前年同期間は為替差損を計上しましたが、当連結会計年度は為替差益を計上したことなどにより20,526百万円と前年同期間比4.2%の増益でした。**当期純利益**は移転価格税制に基づく法人税等追徴税の還付金および還付加算金の計上により13,773百万円と前年同期間比9.2%の増益でした。

● 財政状態に関する分析

総資産244,725百万円(前連結会計年度末比15.2%増)、**負債**の部合計106,646百万円(前連結会計年度末比9.9%増)、**純資産**の部合計138,078百万円(前連結会計年度末比19.7%増)となりました。

○ 会社概要 (2013年3月31日現在)

社名 株式会社アシックス
創業 昭和24年9月1日
資本金 239億7千2百万円
事業内容 各種スポーツ用品等の製造および販売
本社所在地 〒650-8555
神戸市中央区港島中町7丁目1番1
TEL : (078) 303-2231
FAX : (078) 303-2241
従業員数 5,937名 (連結)

○ 役員 (2013年6月21日現在)

代表取締役社長CEO	尾山 基	常務執行役員	ジョン・モレンジャー
取締役 常務執行役員	佐野 俊之		ロナルド・ピーターセン
	松尾 和人	執行役員	山根 至
	橋本 幸亮		小幡 俊夫
取締役執行役員	土方 政雄		西谷 透
	加藤 克巳		ケビン・ウルフ
	加藤 勲		アリスティア・キャメロン
取締役(社外)	梶原 健司	常勤監査役	石塚 達信
	田中 克郎		稲葉 光彦
	宮川 圭治	常勤監査役(社外)	田中 秀明
		監査役(社外)	三原 秀章

○ 株式状況 (2013年3月31日現在)

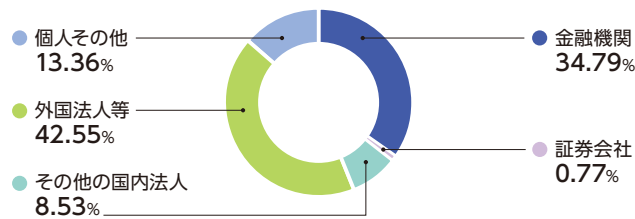
発行可能株式総数 790,000,000 株
発行済株式の総数 199,962,991 株
(うち自己株式10,373,487株)
株主数 12,287 名

○ 大株主 (上位10名)

(注) 持株比率は、自己株式を除いて計算しております。

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,024	4.2
株式会社三菱東京UFJ 銀行	7,858	4.1
株式会社三井住友銀行	6,607	3.5
日本生命保険相互会社	6,309	3.3
株式会社みずほコーポレート銀行	5,568	2.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,345	2.8
メロンバンク エヌエー アズ エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	4,625	2.4
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505225	4,320	2.3
株式会社みなと銀行	4,208	2.2
サジャップ	3,063	1.6

○ 分布状況 (所有者別)



株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日 3月31日
定時株主総会 毎年6月中
単元株式数 100株
公告方法 下記の当社ホームページに掲載いたします。
<http://www.asics.co.jp/ir/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

株主名簿管理人および
特別口座 口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社
本店 証券代行部
事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
特別口座に関する
お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほ証券株式会社 全国本支店

※株式に関する各種お手続き(住所変更、単元未満株式の買取・買増等)は、株主様の口座が開設されている証券会社にご連絡ください。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記みずほ信託銀行株式会社へご連絡ください。
※未払配当金のお支払いについては、みずほ信託銀行株式会社全国本支店または株式会社みずほ銀行全国本支店へご連絡ください。
※特別口座で管理されている株式につきましては、一般口座にお振り替えいただくことができます。お手続きにつきましては、上記フリーダイヤルにお問い合わせください。

株主総会・IRに関する発表資料、決算発表資料、アニュアルレポート(英文)など株主・投資家向けの情報については当社ホームページ(<http://www.asics.co.jp/ir/>)に掲載しています。



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

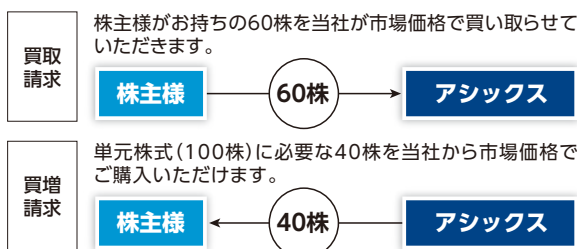
単元未満株式の買取・買増請求制度のご案内

当社株式の証券市場での取引単位である単元株式は100株単位(1単元)となっており、単元未満株式(1株～99株)を証券市場で売買することはできません。

当社では、単元未満株式の買取・買増請求制度を設けておりますので、単元未満株式の売却(買取請求)または単元株式への買増(買増請求)をご検討ください。

なお、株主様から当社へお支払いいただく手数料は無料です。

(例) 株主様が60株をお持ちの場合



お問い合わせ先

- 株主様の口座が開設されている証券会社にお問い合わせください。
- 証券会社に口座を開設されていない株主様は、みずほ信託銀行株式会社(☎0120-288-324)にお問い合わせください。

※上記ご案内は、特定の証券会社との取引の勧誘や、単元未満株式の買取・買増請求の勧誘を目的とするものではありません。これらについては、必ず株主様ご自身のご判断により行っていただきますようお願いいたします。